

# 香川大学教育学部 附属高松中学校

自ら立ちつつ 共に生きる 今日に生きつつ 明日を志す

## 新しい時代の学びを拓く

総合的な学習の教科化と必修教科の内容の見直しによる教育課程の研究開発(3年次)

附属高松中学校では、平成20年度から、文部科学省の研究開発学校の指定を受け、総合教科「未来志向科」を設立し、同時にこれまでの必修の9教科を見直すことで、新たな教育課程を開発しています。

### 総合教科「未来志向科」の開発

—今日の課題について学び、未来を展望する—

未来志向科とは、総合的な学習の時間を「学習内容」と「資質・能力」から見直した新しい教科です。

教科化することにより身に付ける知識・技能と能力を明確にすることができました。

未来志向科では、3年間を通して今日の課題を扱う3領域(情報、産業、環境)を系統的に学習し、新しい知とこれからの時代に必要な力を同時に身に付けることができます。

—これからの時代に必要な力—

周囲を取り巻く状況を読み取り、自分の考えを深め、創造的に問題を解決していく力

次の4点を意識し、学習の過程や活動、教材、評価の方法を研究しています。

- これからの時代に必要な学習内容と資質・能力を分析する
- 必修の9教科と関連させて学習効果を高める
- 主体性を高め、自ら学び、自ら考える態度を育成する
- 指導と評価の一体化を目指した実践に取り組む



情報社会の中で生きるためには？

### 情報領域

グローバル化の進む情報社会の特質を理解し、私たちの生活と情報との関係を捉えていきます。「文化」「防災」「メディア」の単元において、読解・表現の学習過程を通して、「必要な情報を適切に選択し、解釈する力や情報社会に主体的に対応する態度」の育成をねらいます。



新時代の産業を支える新たな価値は？

### 産業領域

日々変容していく社会において産業の現状を見つめ、これからの時代に何が必要となってくるのかを考えていきます。「健康」「エネルギー」「金融」の単元において、「先を見通し、根拠に基づいて考えたり、目的に応じて判断したりする力」の育成をねらいます。



環境問題や社会問題を解決する方策は？

### 環境領域

自然環境や社会環境に見られる今日の課題を広い視野から見つめ、その解決に向けての方策を自ら追究していきます。「福祉」「経済」「政策」の単元において、よりよい環境の創造に向けて「自ら問題を発見し、その解決策を探る力」の育成をねらいます。



## これからの時代に求められる力を育成する未来志向科の特徴

### 未来志向科の学習内容

人間的側面，自然的側面，社会的側面の異なる3つの側面からアプローチし，学年の発達段階に応じて系統的に学習します。また，3年間の学習を通して系統的に何を学ぶのかを明らかにするために，「単元を貫く問い」を設定しています。

領域	学年	人間的側面	自然的側面	社会的側面
情報	単元	情報と文化	情報と防災	情報とメディア
	単元を貫く問い	世界に発信する日本の文化的な情報は何か。どうすれば自国の文化を理解し，他に発信できるのか。	情報を活用した防災対策とは何か。どうすれば情報を活用して災害に対応することができるのか。	メディアの有用性と課題は何か。どうすれば今後メディアに主体的に接していけるのか。
	1年	伝統的な日本文化	災害情報の基礎	メディアの基礎
	2年	現代的な日本文化	パンデミック	著作権
	3年	世界遺産と日本文化	地震災害	映像メディア
産業	単元	産業と健康	産業とエネルギー	産業と金融
	単元を貫く問い	産業と健康のつながりは何か。どうすれば健康を維持できる社会を築くことができるのか。	効率的なエネルギー利用とは何か。どうすればより良い未来の産業の姿を構築できるのか。	産業と金融の関わりは何か。どうすれば変化の激しい経済社会の中でより良く生きていけるか。
	1年	ライフスタイルと健康	未来のエネルギー産業	金融のしくみ
	2年	食産業と健康	燃料電池と自動車産業	経済設計と金融
	3年	貿易と健康	自作ロケットと宇宙産業	起業と金融
環境	単元	環境と福祉	環境と経済	環境と政策
	単元を貫く問い	少子高齢化問題とは何か。どうすればより良い福祉環境を築けるのか。	地球温暖化問題とは何か。どうすれば環境と経済の両立をもとに，より良い地球環境を築けるのか。	持続発展可能なまちとは何か。より良い生活環境をつくることのできるのか。
	1年	バリアフリー	地球温暖化問題の解決策(家庭・学校)	まちづくり(再生資源)
	2年	ユニバーサルデザイン	地球温暖化問題の解決策(地域・団体)	まちづくり(水資源)
	3年	ノーマライゼーション	地球温暖化問題の解決策(企業・地球)	まちづくり(地域資源)

- 年間を5月～7月，9月～11月，1月～3月の3クールに分けて実施し，小単元を7コマで構成する。また，1単位時間を60分に設定し，生徒の学習に対する持続力や集中力の育成を図る。

### 評価方法の工夫

- 複数人の教師により単元計画，授業実践，授業評価，そして生徒への評価を実施し，指導と評価の一体化を安定して行う。
- 各領域の特性に応じて，評価の観点を「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」と設定し，通知票にA～Cの段階を記載する。
- 生徒の評価については，単元の内容に即したパフォーマンス課題を設定し，より高次の学力を評価するとともに単元終了後にはペーパーテストを実施する。また，ワークシートをポートフォリオ化するなど多面的に評価する。

# 必修教科の内容や学び方の改善

—よりよい教科のあり方を目指して—



総合教科「未来志向科」との関連を図りながら、必修の9教科についても学習内容や学び方の見直しを行っています。具体的には、各教科の領域や分野の見直し、単元開発などを行うことで各教科特有の知識や技能、学び方を確実に身に付けていきます。各教科の見直し・改善の視点は以下の3点です。

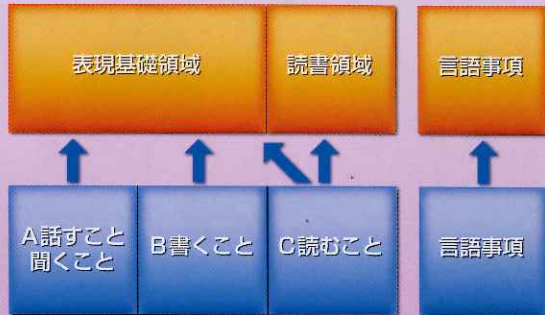
- 各教科の学習で身に付ける知識や技能、考え方を子どもたちに確実に定着できるようにする
- 各教科の特性に応じた学習内容や学び方に着目し、よりよい教科のあり方を探る
- 個々の学習の質を高めるために、新しい指導と評価のあり方を探る



## 必修教科の内容の見直しの実践

必修の9教科と未来志向科とのつながりを考えながら、「新しい領域を設定する」「新しい学習内容を取り入れる」「学び方を取り入れる」「学習内容を入れ替える」「新しい資質・能力や考え方を取り入れる」の5つの方向から教科の見直しを図りました。

### 新しい領域を設定する



言語力を育成するために、現行の「3領域1事項」を見直し、2領域1事項に変更する

### 国語科

### 新しい学習内容を取り入れる



世界史の学習を取り入れ、世界的な社会認識をもとに持続可能な未来を志向する

### 社会科

### 学習内容を入れ替える

心身の機能の発達と心の健康		心身の健康	
1年	ア 心身機能の発達	1年	ア 心身機能の発達
	イ 生殖にかかわる機能の成熟		イ 生殖にかかわる機能の成熟
	ウ 精神機能の発達と自己形成		ウ 健康の成り立ち
	エ 欲求やストレスへの対処と心の健康		エ 生活行動、生活習慣と健康
3年	健康な生活と疾病の予防	3年	正しい健康生活
	ア 健康の成り立ちと疾病の発症原因		ア 精神機能の発達と自己形成
	イ 生活行動、生活習慣と健康		イ 欲求やストレスへの対処と心の健康
	ウ 喫煙・飲酒・薬物乱用と健康		ウ 喫煙・飲酒・薬物乱用と健康
	エ 感染症の予防		エ 感染症の予防
	オ 健康・医療機関や医薬品の有効利用		オ 健康・医療機関や医薬品の有効利用
	カ 個人の健康を守る社会の取組		カ 個人の健康を守る社会の取組

体育分野に保健分野の知識を生かせるように、現行学習内容の配当学年を入れ替える

### 保健体育科

### 学び方を取り入れる

学 年	英語科の学びを支える「学習スキル」	「学び方のスキル」が表出する生徒の行動	具体的学習活動
第1学年	○英和・和英辞典の引き方 ○単語・熟語の覚え方 ○図書館での本の探し方	○教科書、辞典などの資料を活用し、表現の仕方を工夫する	○自分だけの英語辞典づくり ○英語でスピーチ
第2学年	○英文手紙・英文はがきの書き方 ○聞き取りのためのメモの取り方	○自分の学習の仕方を振り返る ○自分の意見や考えを適切な英語で表す	○英語の問題作成 ○英語紙芝居づくり
第3学年	○まとまりのある文章の書き方 ○要約の仕方 ○リーディング、パラグラフスキル	○自分の考えをもとに修正する ○友達の見解を参考に修正する ○訂正の視点を言語化する ○課題を解決するまで根気強く取り組む	○英字新聞づくり ○英語ビデオ、CMづくり ○英語でディベート

※ 重点的に指導する学年を左に示す

自ら学習する手だてとして、学び方を取り入れた学習内容を設定する

### 英語科



## 研究発表会のお知らせ

3年間の研究成果については、研究発表会でご覧ください。

- 期日 平成23年6月10日(金)
- 場所 香川大学教育学部附属高松中学校  
香川県高松市鹿角町394  
TEL087-886-2121 Fax087-886-2124
- Web <http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~takachu/>